

第8回 無人航空機の目視外及び第三者上空等での飛行に関する検討会

議事概要

日 時：2018年12月6日（木）10:00～12:00

場 所：都道府県会館 402 会議室

- リスク要因の整理について、SORA の蝶ネクタイモデルに落とし込む作業を行ってはどうか。また、ユースケースの位置づけについて、機体の信頼性や電波の途絶具合等も勘案された発生確率も検討すべきではないか。ISO では、無人航空機の故障確率の議論が行われており、参考にすべきではないか。
→ ご指摘の点を考慮して検討を進める。機体の信頼性等については、どの程度の信頼性が不可欠という観点で要件検討を行う方法もあると考えており、ご意見を頂きながら引き続き議論させて頂きたい。
- EUROCAE からの情報として、欧州でも小型無人航空機の検討を進めており、具体的には、耐空性、通信（C3 リンク）、ソフト機能（非常停止機能、緊急着陸機能、Go Home 機能等）、セキュリティ（サイバー攻撃等）、SORA に基づくリスク分析の標準化等のテーマ別に、ワーキンググループ等を通じて議論を行っているとのことであった。
- スイスの Matternet 社の事例は、都市圏における目視外飛行の事例として非常に参考になるため、特にどのようなハードルを越えて実行に至ったか等、詳しく調査していただきたい。
→ 引き続き調査して、より詳細を再度情報提供することとしたい。
- リスク要因の抽出案について、各項目のレベル感の色分けを行い、リスクの優先順位付けを行うのが望ましい。
→ ご指摘の通りであるため、安全対策の抽出に向けて再度整理したい。
- リスク要因のマトリックス表の縦軸について、機体、地上局（GCS）、UTM 等はどのように切り分けられているか。
→ GCS は機体を含めており、UTM 等の外部システムは運航体制・外部システムに含めている。
- 必要な制度に関連して、業者認定等については、官民協議会の検討を踏まえて今後方向性が検討されるとのことであるが、ハードウェア面の議論だけでなく、安全管理者の作

成した安全規定に基づき PDCA を回すための SMS (safety management system) の
議論も必要であると考える。

→ 適切なタイミングで検討させて頂きたい。

以上